

#笑って一日



成人のお祝い。孫がおばあちゃんに晴れ姿を見てもらう。そんな光景かと思いきや、実は学生アルバイトのリナちゃんと入居者のヤマさん。掃除をしていると、いつも「ありがとう」と少しのことでも感謝の気持ちを伝えてくれて、「あなたを見ると元気になるよ」と声をかけてくれる。そんなヤマさんに「恩返ししたい！」と来てくれました。ご覧の通り、嬉しくて嬉しくて、喜びが溢れちゃって笑顔満開！

365 日。泣いても、悩んでも、笑っても 1 日。タカさんが書初めにしたためてくださったように、2024 年もご利用者の皆様と“笑って一日”過ごせるよう関わらせていただきたいと思います。



本年もどうぞよろしくお願い致します # ふたりの関係 # 元氣になれる存在

玉樹だより

Tamaki Dayori

2024.2
vol.64

普通に暮らす幸せを1番大切にしている
特別養護老人ホーム玉樹の広報誌



Instagram



HP

自分の足で歩きたい



95 歳になるテルさん。時々、他ご利用者に「何年生まれ？」と聞き「私は昭和3年だよ」と誇らしげに仰られる姿を見かけることがあり、95 歳になっても自分の足で歩けることが心の糧になっているのかなと感じていました。

しかし昨年、転倒して骨折してしまい3ヶ月の入院とリハビリを余儀なくされた時は、とても辛かったと思います。以前はシルバーカーで歩行され、ご自身で玉樹のフロアを何度も往復して運動されていましたが、退院当初は歩行器

を使用しなければいけない状態で、お部屋で横になられる姿が多く見られていました。そこで、職員と一緒に1日に1回フロアを1周～2周歩行練習し、スクワットも20回行うようにしました。

すると1ヶ月が過ぎた頃には「運動行ってくるね」「歩けなくなったら大変」と、自発的に歩行練習されるようになり、以前のように歩行も安定されてきました。日帰りツアーにも参加され、日ごろの運動の成果でバスの乗り降りも手すりに掴まりながら、ほぼ一人でされていました。

普段は控え目で言葉数は少ないテルさんですが、先日「100 歳まで自分の足で歩きたい!」と想いを聞かせてくださいました。そんな内に秘めた気持ちの強さが原動力となり、95 歳という年齢でも骨折を乗り越え、またご自分の力で歩けるまでに回復できたのだと思います。

高齢になると諦めてしまいがちになることも多いですが、ご利用者一人ひとりの原動力となる想いを引き出し、支えていけるようなケアをしていきたいと、テルさんとの関わりを通して改めて学ばせていただきました。

文：ケアワーカー 猪瀬 聡子

社会福祉法人 絢会

イベント

餅つき&門松作り

2023.12.28

最近では家庭で餅つきする光景も少なくなってきましたが、昔ながらの季節行事を楽しんでいただこうと、毎年ボランティアさんと職員が協力して手作りしています。



イベント

さつま芋祭り

2023.11.4(特養) 11.13(在宅)

玉樹の畑で採れたさつま芋で職員が手作り♪特養はご家族を招待して一緒に食を楽しみ、在宅部署は巨大さつま芋の重さ当てクイズで大盛り上がり♪
※スマートフォンのカメラから、右のQRコードを読み取ると動画を見ることができます。



はたらく人

ザ・盛り上げ隊長！

皆がファンになっちゃうみたいです



塚田 幸恵（在宅介護支援課 課長 ケアマネジャー歴 20 年）

○好き：ゴルフ、マッサージ、GACKT（ガクト）

○どんな人？

いつも誰かを笑わせているムードメーカー！影で努力し真摯に向き合う姿勢をチーム皆が尊敬し、頼りにする存在。

○塚田課長から一言

日々たくさんの人との関わりの中で学び、成長させていただいています。「地域で暮らす」を目標にご利用者の出来る力を引き出せる支援をしていきます。



石原 達也（特養 あじさい荘、ケアワーカー歴 4 年）

○好き：音楽鑑賞、スケートボード、友達とお出掛け

○どんな人？

いつも穏やかで優しい。謙虚で言葉遣いが丁寧。所属ユニット以外のご利用者が会いに来るほどのモテっぷり。

○石原さんから一言

入社してからあっという間に4年もの時間が経ちました。介護職として初心を忘れず向上心を持ち、ご利用者の想いに寄り添うことができるスタッフをこれからも目指します。

ケアの広場

食べる ～大切にしていること～



皆さんが毎日食べている食事は、生きていくために必要な栄養を摂取するための大切な営みです。また、毎回の食事は、日々の生活の中で大きな楽しみの一つです。美味しく楽しく食事をする事ができれば、ご利用者の生活も充実したものになると思います。

ご利用者が食事を摂れなくなる場合、そこには様々な原因が潜んでいます。低栄養が進行し、感染症やサルコ

ペニア、寝たきりなどの合併症を起こさないためにも、玉樹では食べられない原因を即時に把握し、適切な対応を取ることを大切にしています。

例えば、① 玉樹の食事に栄養補助食品をプラスして提供（エネルギーとたんぱく質を確保でき、種類や味も豊富です。）②市販の食品も提供（日常生活でも『今日は何を食べようかな?』とちょっとしたワクワク感を感じていただくため。生活の幅も広がります。）③ 好物の食品を施設で用意し提供（看取り期でもその方の好物を用意させていただくと食べられることも沢山あります。）

特に③は、何も食べられなかった方が、一口でも食べられた瞬間は職員一同本当に嬉しいです。最期まで食べることを支えるケアは、その人の尊厳を守ることにもつながると思っています。

これからも【どんなものが食べたいか】一人ひとりの食べたい気持ちを大切にし、できる限り体調や好みに合わせた食事を提供させていただきたいと思っています。

文：管理栄養士 大川 純子

地域福祉

2024 年 4 月プレオープン!

コミュニティプレイス

CONCEPT

INDIGO.

社会との繋がりを諦めない
食を通じて多世代が交流する場

つむぎ
プロジェクト
玉樹×地域福祉



2024 年 4 月に八千代町の方にはなじみのあった居酒屋いっぴん亭をリノベーションして、コミュニティプレイス INDIGO. (インディゴ) をオープンします。ここは、私たち紬会が運営する『人が交流する居場所』です。「食」をきっかけにお年寄りや子ども、若者、誰もが気軽に立ち寄り、出会いや繋がりが生まれる場所にしていきたいと思っています。

なぜ立ち上げるのか、それは「誰もがずっと社会との繋がりを諦めずにもてる場所」を作りたいと思ったからです。

紬会では 2005 年から介護施設を運営し、高齢者介護に関わってきました。その中で、認知症や介護が必要になると諦めなければならないことが増えていく現状を目の当たりにしてきました。社会的な繋がりを諦めると、今まで作ってきた人との関係が崩れ、友達とも疎遠になり、地域や家庭内でも役割がなくなってきます。すると、出来ることが減ってきて、周りからのサポートが必要になり、介護者にとっても対応が難しくなってきます。これは高齢者だけの問題ではなく、多世代にわたって起きています。INDIGO. には、大きなキッチンがあります。そのキッチンを活かし交流できる場として多世代の方に利用していただけたら、人が支え合いながら過ごせ、楽しい地域になると思います。3 月にはタイル貼りや壁画のペンキ塗りなどを行うワークショップイベントを予定しています。ぜひ、みなさんも足を運んでみてください。

文：コミュニティコーディネーター 染野 ユミ